平成29年度第2回原町区地域協議会 会議録

<地域協議会の日時・場所>

1 日 時 平成29年5月26日(金)
開始 13時30分
終了 15時15分

2 場 所 市役所本庁舎4階議員控室

【 会 議 録 】

1 開会

■事務局

ただいまより平成29年度第2回原町区地域協議会を開会いたします。委員15名のうち、現在、出席委員11名で、半数を越えていることから、本会議は成立していることをご報告いたします。

【出席委員名】 11名

鈴木 進一、門馬 エイ子、高田 光吉、五十嵐 章、
濱田 賢次、廣瀬 要人、森岡 和人、小林 正人、山城 雅昭、
島村 哲哉、高倉 紀子

【欠席委員名】 4名

渋佐 克之 山本 昭彦、 長岡 貴志、鈴木 清重

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 会議録署名人の指名

■会長

署名委員の指名ですが、五十嵐委員、濱田委員の2人をお願いします。

(2) 書記の指名

■会長

続いて書記の指名ですが、米田主事をお願いします。

(3) 報告事項

■会長

それでは、報告事項に入ります。報告事項報告事項①「南相馬市宮原町墓地条例の一部改正について」担当課から説明をお願いします。

(生活環境課より説明)

■会長

今の説明について、質問、意見等ございますか。

■高田委員

参考資料関係も含めてよろしいですか、

■生活環境課

はい。

■高田委員

まず、第一点目に、1 ページ目、現在、選考をして供用開始というが、これ多分、既に要望が出ているんじゃないかと思いますが、どの程度まで出ているのか。

そして、第二点目は、参考資料の3 ページ、現在、市外に住所を有する方っていうのは、高いわけですが、現在の1,494 人のうち、戸数としてはどの程度になるのか。それから、3 点目に、第11 条の3 番で、許可証というのは、お金を払ったときに、市長の方から出すとなっているんですが、この分割納入の場合に、それは分割納入を全部完了した時点で出すのか。あるいは最初の部分で出した人に出すのか。この辺がちょっと分からないのですが。例えば、最初納入した段階で出すのだとすれば、その後、トラブルが起きる可能性があると思うのですが、過去にそのような事例はあるのか。それから、最後に、管理料についてですが、年度途中の場合については、これは市長が規則で定める管理料を徴収するとあるが、例えば、6 カ月過ぎて半分というようなことになるのか。具体的な例があれば、お示しをいただきたい。以上です。

■生活環境課長

生活環境課長でございます。1 点目でございます。225 区画、といった要望があったのかどうかということで、大変墓地需要が少ないということで、要望はあるわけですが、当初これを始める前、震災前の原町市の時代ですが、アンケートをとってございます。全数7割に当たる740の方から早期に必要なという答えがありました。それをもとに計画が進んだわけですが、震災を挟みまして、なかなか進まなかったわけですが、震災後もお骨をそのまま自宅に持ってる方などからの問い合わせや、また、避難・転出された方で、そういったお話があり、墓地の方はないのか、という話も何件か受けています。225 区画と言いますが、これについては、かなりの割合ですぐ申し込みがあるのでないか、というふうに考えてございます。

2 点目の、市外に住所がある方の件数ですが、実質市外の方が当初から使用している例はございません。ただ現在、市外に住所がある方で使用している方というのは、当初はここに住所があった方が取得し、亡くなるか何かで継承したために、その親族の方が市外の方という例はございますが、市外の方が、最初からこれを取得したというケースは、今のところございません。

3 点目の分割の質問ですが、これも今までに実例はございません。大体お支払

いただきまして、取得されてございます。分割の例がございませんので、実例を上げるっていうことができないのですが、基本的には、分割が生じた場合は、全部納めていただいた時点で、取得するという形になってございます。

■高田委員

最後の質問の管理料についてはどうでしょうか。参考資料3ページの4番、管理料について、この中の参考で、年度途中で使用者となったものに対しては、と色々書いてありますが、例えば、6カ月過ぎて入った場合に、半分ですから、使用料は半分になるのか、そこを聞いたわけです。

■生活環境課 加藤主査

はい。生活環境課加藤と申します。条例に途中からの使用ということで、年間1,150円、7月からであれば、860円、10月からであれば、570円、1月からであれば280円ということで、期間を定めて、4段階で決まっております。

■濱田委員

条例の詳細は分かりかねますが、多分書いてあるのだらうと思いますけども、今は、墓じまいというものがあるようなのですが、放置されたようなお墓ってというのは、今現在あるのかどうか。もし、放置されたままになった場合、最終的には、市がそれを責任を持って処分するのか。それとも、そのまま放置になってしまうのか。そういうのが条例の中にどのように定められているのかちょっと聞きたいのですが。

■生活環境課長

まず放置になったという事例が今までは、ないのですが、そういったケースの場合は、条例の中にもございますが、当然、管理料滞納ということになりますので、しかるべき処理がなされるような規定が条例にございます。最終的には、官報に掲載させていただいて、当然、陣ヶ崎公園の中にも、その官報の内容を設置しまして、1年間、そのまま掲示致しまして、それでも所有者等が現われない場合は、市のほうで処分するというかたちになるわけですが、ただ、なかなか墓地という性格上、これをやるというのは、なかなか難しいところで、全国自治体もそのようでございます、そういった事例は、なかなか聞いたことがございません。内の実情で、実際それが生じた場合、果たしてどのような処理ができるのか、具体的にこの場でお話をするのが難しいというのが実情でございます。しかし、法令上はやらなければならないことになっておりますが、墓地の性格上なかなか、できないという状況でございます。ただ、無縁墓地といったものもございますので、しかるべき処置をとって、そちらのほうに移転するということ是可以できるかと思いますが、そのような事例はございませんし、それをやるに当たって、なかなか踏み切れない部分も出てくるのかなというところが正直なところでございます。

■濱田委員

今後ですね、南相馬市も高齢化が進んでくるというようなことは誰しも分かっている中で、恐らく、震災後、相当の人が避難したままで、若い人たちが戻ってこず、老人の割合が増えてきている。そうした場合、将来的には、墓地が

放棄されたままで、最終的に残った市民が、その負担をしなくちゃいけないというようなことが懸念されるわけです。それをわかっていながら、放置するっていうのは、いかがなものかという気がいたします。それを推測できるのであれば、その対策なりは、講じておくべきなのだろうし、新たに契約するものに関しては、そういう何か取り決めなり、ルール付けは、しておかなくちゃいけないのかなど。そのことについて、また市民にも負担のかかるようなことがあれば説明しとかなないと。経費が均衡とれてるから、このままの経費で良いという説明がありましたが、そうなると、この均衡が崩れるわけですから、必ずしも、今のままのルールでいいのかという疑問も残ってくるんだろうと思います。その辺をやはり、課題と思って取り組んでいただければなと思います。

■生活環境課長

仰るとおりでございます。また、条例は条例としまして、必要であれば、改正も含めて、その対策については、早急に立てていかなければならないと思います。当然使用料について、使用していただく場合に、初めの段階である程度のご説明をさせていただいて、そういったことがないように、使っていただくようになると思うのですが、それでも、今回の震災でいろんなこともございますし、そういった事例に対する対策も講じなければならぬのは確かでございますので、それも含めまして、最終的な条例改正も含めまして、検討させていただきたいと思います。それに当たっては、この価格設定についても、墓地設置審議会という組織がございます。そういったところに審議をいただくこととなり、市民のご意見も取り入れながら進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

■五十嵐委員

今の濱田委員との関連なんですけど、今現在では、その管理料未納の方は、いらっしゃるんでしょうか。というのは条例の18条等に、今仰っていた未納の場合は、3年間納めない場合は、云々という記載があるのですが、お聞きしたいのは、今現在、3年以上の未納の方がいらっしゃるのか。それが一つ。あともう一つですね、私のうちも公園墓地にお墓があるのですが、3年前ですかね、お墓の前に「このお墓の管理をしているのは、どなたですか。」と尋ねるような看板を掲げていた記憶があるのですが、市でそのような調査をなさった記憶はございますか。「このお墓の使用者は、市の方へお知らせください」というような看板がですね、1件どころではなく、何件か看板を掲げていたんですけど、それは市でやらなかったですか。それで、要は、管理料が未納になって使用している方も、継承していない方もいらっしゃる。そういった場合の措置は、条例第18条と19条で、無縁墓地にするなど云々の記載がございましてね。私が聞きたいのは、今現実、そういう方はいらっしゃらないのかということをお尋ねしたいです。

■生活環境課長

27年度末で件数にしますと、157件ほどございまして、ただ、その中でも同じ人がダブっている件数がございまして、実質の人数が手元の資料では、詳細までは、今、分かりかねるのですが、当然、これについては督促するなり、あらゆる連絡を取っております。先程の看板のお話しですが、そのような方が

いらっしゃった時に整理させて頂いた過程で掲示したものになるかと思います。この中で、身元の分からない人に関しては、現状いらっしゃらないと思います。跡継ぎがないなどの問題はありましたが、その他については、滞納ということになりますので、現在、28年度も決算が出た状況ですので、滞納整理を徹底してやってまいりたいと思っております。

■山城委員

この前の地震で、倒れたままとか、あるいは草が生い茂っている状態のところは、入って管理されているのか。それとも、そのままなのか。その辺の管理はどうされているのか。不勉強で申し訳ないのですが、教えていただければと思います。

■生活環境課 加藤主査

木については、この前、強風があったかと思うんですけども、あのとき何本か倒れてしまったんです。それについては、撤去させて頂いています。除草管理についても、共用部分ということであれば、委託して除草はさせて頂いています。

■山城委員

個人の部分についてはどうですか。

■生活環境課 加藤主査

個人の部分については、個人の使用者がおりますので、そこは、ちょっと荒れているところは、あるかもしれません。

■廣瀬委員

私も審議会のほうの委員になって、大変恐縮なんですけど、ちょっと確認しておきたいんですが、墓を購入する際に、市民であることが条件なんですか。これが1点、課長にこれを確認しておきたいと思います。それから、途中から市民たる条件がなくなる場合がございますね。例えば、市外に転居してしまった、あるいは、もう一つ考えられるのは、当該者が死亡してしまった。市外の方が管理を継続してしまうという、そういうことも考えられるんですけども、この2点ですね、市民であることが購入する条件なのか。それから途中から市民でなくなった場合に、親族が市外でも継続できるのか。その辺をちょっと確認しておきたいです。

■生活環境課長

まず、条例上は、市に住所を有する者となっております。ただし書きとしまして、市長が特に認めるものは、その限りでないがございますが、まず、原則としては市に住所があることが原則でございます。それから2点目の市外に住所をおかざるを得なくなった、市外の方となった場合ですが、先ほど少し私も触れましたが、最初取得した方が市内の方で、どうしても親族の方が市外の方となった場合は、継承しなければならないので、こういった場合は、市外の方で継承されている方もございます。それ以外については今のところ、市外の方が取得して使用しているというようなケースはございません。例えば、この辺

も審議会等で話が出ていたと思いますが、震災によって避難して移さざるを得なくなったというか、震災当時は、南相馬市に住所があった方で市外にやむを得ず行ってらっしゃる方は、どうするんだという話が出ると思うのですが、今の条例上は、市に住所がある方となっておりますので、認められないところでございますが、市長が特に認めるという部分で、それは、今後検討していかねばならない部分かなというふうには、捉えてございます。それと、今回 900 区画でございますが、多めに造ったところであります。市民の方全部、要望需要を満たす場合、もし余裕があるような場合は、これは市外の方でも、取得できるようなことを検討していかねばならないというふうには考えてございます。当然それによって、もし市のほうに移住していただくとか、墓だけ購入していただいて、さらに将来的には、こちらに移住してもらってというふうなこともあり得ると思いますし、なにかしら墓があるということでこちらに来ていただくことは多くなると思います。墓の需要に対する不足が全国的な問題となっていると思いますので、そういった状況を含めまして、南相馬市のほうに少しでも、効果があるということであれば、市外の方の取得も検討していかねばというふうには考えています。

■会長

ほかに何かございますか。他に質問がなければ、以上で報告事項を終わります。

(4) 協議事項

■会長

次に議事の(4)協議事項に移ります。協議事項①「地域協議会委員提言について」事務局から説明をお願いします。

■事務局

それではまず、前回、28年度の第8回の地域協議会の際に、委員提言ということで2件、協議をしていただきまして、そのうちの一つ、馬事公苑のあり方について第三者委員会を設置するという提言についてご協議をいただきました。協議の内容につきまして、要約したものを案として、皆様のお手元の方にお渡ししてございます。前回の協議会の中、最終的な結論としては、この提言を市長に提出するという事で決定の方をさせていただいたものでございますので、その中身について文言の整理をさせていただいております。お配りした資料の地域協議会の意見というところに記載してございますが、要約した背景としましては、まずはその馬事公苑のうち、施設の利用者が少ないという現状があって、それに対して維持管理に多くの費用がかかっているということが指摘をされているところでございます。その中でこのままの状態が続けるということではなくて、これまでのことを踏まえながら、馬事公苑をどうするかについて、考えていく必要があるというふうに、ご意見をいただいております。担当課の方も出席しまして使用状況であったり、それから市のほうでは、指定管理者制度を導入して改善に努めているということの説明もございましたが、その中で、市の担当部局あるいは市の考えだけで決めるのではなく、市民を含めた、第三者委員会で検討することが必要ではないか。というご意見をいただきました。また、さらに馬事公苑が

今どのような状況にあるのか、また、今後どのように活用されていくのかということについて、一般の方は、知らないのではないかというご意見もいただいておりますので、そこのところも、加味をしまして、こちらの文章に、まとめさせていただいた次第でございます。意見ということで、もう一度繰り返しますと、中身として、国体以降、馬事公苑の施設利用者が少ないという現状、それに対して維持管理に多くの費用がかかっている。このままの状態を続けるのではなく、これまでのことを踏まえながら、馬事公苑をどうするのかについて真剣に考えていく必要がある。また、一般市民に馬事公苑が今どういう状況にあるのか。今後どういうふうに使われていくのかが伝わっていないことから、馬事公苑のあり方について、市だけで決めるのではなく、市民も入った評価委員会を組織し、検討する場を設けること、というふうにまとめさせていただいております。この内容につきまして、修正・訂正点がございましたら皆様で協議していただきまして、それをまたまとめて、市に提出したいと考えております。以上でございます。

■会長

この提言について、委員から何か質問等ご意見等ございますか。

■高田委員

第三者委員会を設置するのはいいと思うのですが、問題は中身だよ。第三者委員会については、市のほうの考えで、一方的に作られていくのか。少なくとも、この協議会の中で提言の中から出てきた問題であるので、地域協議会のメンバーが、少なくとも加えていただけるのかどうか。完全にこの地域協議会から離れて組織するのも、ちょっとおかしいと思うんで、その辺は、市のサイドで決めるんでしょうけども、どうなのでしょう。

■事務局

過去にこういう提言に基づいて、第三者委員会を設置したというケースはあまりないことなので、基本的にはこの提言を市に提出しますと、市の担当課で、いろんな第三者委員会のため的人選を行って、内部で決裁をもらって、このメンバーでよろしいかということになると思うのですが、そこに今仰られたように、要望書を出した地域協議会の委員からもということで、誰かを入れてほしいということの要望があるのであれば、その中身についても、ここに加えたほうがはっきりするのかなという感じはします。こちらの協議会からこういう意見が出ました、なお、第三者委員会の中に、地域協議会の委員を入れてくださいというふうに申し出ることでも可能なんですけども、その担当課のほうで申し添えられた意見としてとらえるのか、文書に書かれた意見としてとらえるのかということでの、検討材料になるかと思うんですが、もし、そういう強い要望があるとすれば、書き加えて出したほうが意図は伝わりやすいかなと感じます。

■濱田委員

その件なんですけど、当協議会の立ち位置がどうなのかっていうのは、懸念するんですけど、うちのメンバーから第三者委員会に出席した者が、改めて協

議会の中でその第三者委員会で決まったものについて、意見を言える状態になるのかどうか。うちのメンバーが混ざって第三者委員会で決めたことに対して、協議会において意見をいうのもいかなものか。この協議会というのは、決定した事項について意見を述べる立場にあるのか。あるいは、第三者委員会というような場に混ざって意見するような立ち位置にいる協議会なのか、いずれにせよ、当協議会の立ち位置がはっきりしないと、本来では行政に対して、意見を申し上げるべきものが、当事者になった場合に、あなたたちも混ざって決めたのでしょうか。ということになりかねないのではないのかという危惧もあるので、その辺を整理してかからないと、当協議会の意味が危うくなるような気がするので、ご相談申し上げたいと思います。

■高田委員

それに関連して申し上げますけども、メンバーとして入る場合は、地域協議会代表ということではなくて、あくまでも、第三者委員会の場合は、いろんなところから入るわけでしょう。分からないけどね。委員の選抜は、学識経験者とか公募とか、何らかのかたちで、選ばれると思うんですけども、そこで、地域協議会の委員としてではなく、例えば、一市民として、そういう中に一緒に入って意見を出すことをしていかないと、そもそも第三者委員会で全く問題にならないで終わる可能性も無きにしもあらずと。地域協議会の代表という肩書は、もちろん使わないけども、やはり委員会に入って意見を述べるのがなければ、これは、せっかく協議会で出た意見が全く反映されないということにもなりかねないということなのですよね。その辺のやり方について考えないと。

■山城委員

やはり、発案したあるいは意見を出した者が会議に入らないと絶対うまく伝わらないと思うんですよ。これはもう絶対入れるべきです。よろしくお願いします。

■小林委員

青年会議所の小林です。今のお話を聞いている限りですと、逆に私たちのこの地域協議会から、必ずとも人を何らかの形で出すということは、必要ないのではないかなと思ってまして。あくまでこういった提言をして、第三者の評価委員会をつくってくれというのが意見なので、そこで、公募して集まって、そのところで特に問題なしというのがきちんとしたデータをもとに、議論がなされれば、それは、特に、私たちのほうから出す必要はないのではないかなと思うんですけども、いかがでしょう。

■高倉委員

高倉です。実は、私も国体の時に、ちょっと馬事公苑に関わりを持っており、馬事公苑にはずっと前に、通っていたものです。やはり屋内馬場では、日本では3本の指に入るということで、国体等でお会いした方々にも、そのようにお話ししていただきました。しかしながら、終わりましたから、本当にもう残念ながら活用するっていうことは、例えば、高校の県大会だとか、それから多くは、県外から合宿をしに来るなどして利用されてきたことは、

確かでございます。しかし、その後においては、あそこは本当に、梨の礫みたいになっており、風が吹けば馬場の砂が舞って、吹き飛ばされるような状態です。市民の中でも、あれだけのものをなぜ放っておくのか、ということでした。一つはね、競馬場に使ったらどうかとか。それから、あるいは、また別な施設にしたほうがいいんじゃないかっていうのが出されてましたけども、やっと、この検討委員会の中で出たということについては、大きな前進であると思います。震災を終えてから、あそこは、ほとんど車の出入りで使用されておりました。やはり、どんな関係でも関心のある方がたくさんおられると思います。一般の中からの応募で選ばれた方はもちろん、ぜひ協議会の中から、代表としてではなくとも、こちらの地域協議会の中から提言が出たということもあるわけですから、この中から入るとは思いますが、ぜひともよろしく願いいたしました。以上でございます。

■ 会長

高倉委員の意見をまとめますと、地域協議会から誰かが出るべきだということですかね。

■ 高倉委員

必ずしも、協議会の中から出るべきということではなくてですね、それは、一般公募の中から入られるかもしれませんし、どうなのでしょう。

■ 会長

現時点では、そのような第三者委員会が設置される等、まだ正式に決まったことはないのです。ただ、そのような委員会が設置されるようになったことを仮定した時に、この地域協議会から代表として出て行った方が良いのか。あるいは、地域協議会から誰かをということは考えなくてもいいのではないかと。という点で話し合いをもっているところなのですね。

■ 高倉委員

はい。そうですね。私は、その提案がどういった内容で出されるのかは、わかりませんが、でも提案した以上は、ここからやはり、出していただければいいのでしょうかしらね。

■ 森岡委員

すいません、会長にはお伝えしてありますが、私の方で、もうすぐ退出しなくてはいけないものですから、ちょっと意見だけ述べて帰るのも、本当に申しわけないですけども、せっかくですので、意見させていただきたいと思います。まず、私的にその提言書という形で出すことに関して、協議会としてまとめて当然提言書というものは出すべきものですので、私個人としては、第三者委員会の設置というものに関しては、そこまで、まだ提言するまでには至らないのかなと思います。一番、事務局のほうにお聞きしたいのは、これは、担当部署が文化スポーツ課でしょうから、そちらがこのような提言をしたときに、実質、どんな評価委員会をつくって、どんな人選でということまで話を進めた上で、我々に対しても提言することは可能だということをお示しなのか。それとも全くゼロベースで、これが地域協議会から上が

ったから、こういう意見出たから、担当部署の方でどういうふうに動くのか決めなさいよってという段階なので全然話も変わってきますし、我々として提言したところで、行政のほうから、こういう第三者機関はつくれませんとか、もしくは、それに対し、担当部署のほうから色よい動きがなかったときには、それはそれでやはり地域協議会として意見を出しても無駄なんじゃないかというふうになってしまいます。前回のご意見いただいたときも、やはりかかっている費用と利用者っていうものが、当然、震災以後の流れで、このぐらいの利用者なのに、こんなにお金かけてるのは、無駄なんじゃないかっていう趣旨の中での議論だったですけども、担当課からは、指定管理者を含めて、当然、国体の時から見たら、かなり下がっているものが劇的に回復することはなくても、ディスクゴルフ協会もしくはその他散歩で利用される方も含めて、やっぱり市民のために必要な施設として指定管理者とタックを組んで頑張っているというような、答弁もございましたので、本当にそれを受けてですね、協議会の中で、それでも、もう少しちょっと具体的に知りたいというのであれば、現地を視察するなり、もしくは、指定管理者あるいは、本日も文化スポーツ課の担当者の方は、来てませんけれども、お呼びしてでも、その費用対効果と今後の可能性について、協議会の中で協議に協議を重ねる方法があるのではないかと。文化スポーツ課と我々、協議会で喧嘩をする場ではないと思いますので、話し合った上で、やっぱり建設的に、協議会とそれに、高倉委員おっしゃったみたいに公募の委員を入れるのか。それとも、地域協議会の中から意見を出された方が入るのかとか、そういうものも含めてですね、協議を進めていかないと。こちらとしては、いろいろ意見提言というのは出す権限はあってもですね、受け取る行政の側で、消化不良起こすような形だと、協議会自体の提言に対して、行政の動きっていうのが伴ってこない。その準備があるのかどうかっていうのもありまして、私はもう少し、早急にというほどの緊急危機の課題ではないと思いますが、必要性はすごくあると感じています。もう少し皆さんで、例えば、ここで決を採って、多数決で提言の形を整理するというよりは、全会一致で、行政のほうに意見として出していくのもしかるべきでないかなと思いました。以上です。

■ 廣瀬委員

私も地域協議会長いのですが、今まで決議をしたことはなかったですよね1回もね。地域協議会の性格上、決議機関ではない。諮問に対して意見を述べる。あるいは、地域の課題に提言をしていくというようなことが主であつたらうというふうに思います。したがって、今テーマになっているのは、馬事公苑ですけども。この負の遺産をどういうふうにしたらいいかっていうことが今話題になってますけれども、これについては、では引き続き利用していくという方法もあるでしょうし、思い切って、あそこをもうとり壊してしまうということもあってもいいんじゃないかなというふうに思います。それは、ここで結論を出すのではなくて、ここにありますように、評価委員会あたりで協議をしていく。したがって、地域協議会としては、評価委員会を、第三者委員会を早く設置して検討してほしい。その程度ではないかなというふうに、私は思っております。はい、以上でございます。

■会長

今、廣瀬委員が言ったとおりなんです。問題は、その第三者委員会を設置して検討してほしいという提言なんです。ただ、第三者委員会を開いたときに、そのメンバーとして、ここの中から誰か出るかどうかという話の話し合いなんです。今、森岡委員が言われたのは、既に、これを提言することに決定しているんです。この場でね。ただそれを、さかのぼって、それを止めにしてもう一度協議しましょうっていうことは、これは無理かなっていうふうに思いますので、その点については、ご理解いただければというふうに私は思うのですが。

■森岡委員

すみません、前回途中で退出したものですから、提言が決定事項とういうことは認識していませんでした。

■会長

はい。それを踏まえて、どういうふうに提言するかっていうことで、事務局のほうでこの案を提出してくださったわけなんです。問題は、その第三者委員会を開いてくださいねということなんです。次に、開く際にメンバーをどうするかという次の段階になるので、今回は、まずこの文面で、評価委員会を開いてくださいって提言して、もし、開きますよって言ったときに、多分それはこちらで提言しているわけですから、担当のほうから第三者委員会開きますよっていう回答が来ると思うんですね、その段階で、その中に、メンバーから誰か入るか入らないかということは、その時点、決定した時点で再度協議したいと思います。それが決まらないうちに話をしても、第三者委員会開きませんとなった場合は、それで終わりですので、無駄なことは、今はしないで、その経過を見ていきたい。そんなふうに思いますけども、それでよろしいでしょうか。

■全員：異議なし

■会長

そのように、提言書については、ほぼそのままの内容で出していただければ、というふうに思います。はい。この件については以上で終わりにいたします。森岡委員は、ここで退出致します。

■会長

協議事項について、もう一点ありますか。

■事務局

もう一点は、前回の協議会の際に提言ということで、門馬委員のほうから、休園中の石神第一幼稚園の開放についてということで、提言をいただきまして、当日ちょっと所用によって、門馬委員が出席されなかったことがありまして、またあと、前回の地域協議会の中で、その提言の内容について、もう少し整理をしてから出したほうがいいのかというご意見もありました。そのことについて、まず概要と前回の流れをこちらに記載しております。

たので、門馬委員も欠席でございましたので、ちょっとそこをもう一度こちらのほうでご説明をしまして、その後は、この提言についてどうしたらいいのかということ協議をいただきたいと思います。

(事務局より委員提言について資料の説明)

■門馬委員

私も、調べる時間がなかったもので、突然、こういう要望を出した経緯はあります。ただ、老人会、また、PTAの方々は、ぜひつくってほしいっていうことを聞いた上での提案でした。老人会をやっているのですが、1カ月1回では、物足りないっていう要望も来ておりましたので、それから、PTAの方々も、そういう子供食堂とかをやるのであれば、グループでお手伝いしますよって意見もあったものですから、ここに、提案したわけです。ただ、児童館はあるんですが、児童館もやっぱり入る条件がありましてみんなが児童館にいける状態ではないです。うちで面倒見る方はだめですし、下校した後に、うちで面倒みれる人がいない場合に限り、入る対象になっておりますので、そこは、保護者の方々が、運営しておりまして、そこを1カ月に1回貸してくれっていうのもちょっと無理かなって思います。

だから、老人会の方々は、日中1人の方が多いので、その辺を遊びには、うろうろ歩くんですが、1カ所まとまった場所があれば、そこで、5名なり10名なり集まってお話しできれば、ちょっと時間は過ごせるかなと思って、ご提案申し上げたところです。

■会長

今の話を伺うと、老人会、PTAのほうは賛成している。問題は、門馬委員からあったように、区長さんのほうでは、早く石神第一幼稚園を開いてほしい。一方で、幼稚園を開いてほしいって言いながら、その幼稚園じゃなくて別なものに幼稚園を使わせてほしいということで、合わないのではないか。そのすり合わせをちゃんとしてからっていうふうなお話だったと思うのですが、区長さんが要望する幼稚園の開設との関連については、どうなっているのですか。

■門馬委員

実際、区長会には聞いておりません。ただ、PTAの方々は、幼稚園を再開してほしい要望は出したのですが、市からの返答はないってことは聞きました。ただ、石神一小も人数が増えているので、みんなも、幼稚園の再開は難しいんじゃないかっていう空気はあります。私たちの石神一小、幼稚園区内でも高平に行っているのですが、今、5、6名しか高平のほうには行ってません。だからPTAでも、幼稚園の再開は難しいのではないかっていう雰囲気は、持っているようでした。ただ、PTAの集まりにおいて、この案を提示したことはないというのが現状です。

■濱田委員

これは、JAでもデイサービスは行っていて、建物は今、新地と小高に持っておりまして、そこにお年寄り、年配者が集まって、週に2、3日とか集

まっぴらっしゃるんですよ。原町には、まだその施設は、うちでは持ってないんですよ。いろいろお金の都合もありまして。施設の管理の問題なども私は、正直理解できます。一方で、何でもかんでも市の建物をそういうふうに使っていいのかということになってくると、それも私はいかななものかという気もしないわけじゃないわけです。でも門馬委員が仰るような要望も、当然それはあるわけです。そこで、今問題となっているのは、この高齢者の福祉事業をどうするかという問題なんだろうと。ここが整理されないと、こういう問題は、あちこちで起こってくるわけです。別に、石神にそういう問題があるわけじゃなくて、恐らく市内の至るところに高齢者の居場所がないということは、南相馬いたるところにそういう問題は、できているんだろうと。そういう、根本的な福祉事業の老人対策っていうものを置き去りにした中で、この問題が話し合われているのかなっていう思いは正直持っています。それはうちのJAでも福祉事業ということで取り組んできて、その問題は、本当に感じているわけです。むしろ、この提言としては、どのように市がこのような福祉事業に取り組んでいくのかを提言したほうが、すっきりするのではないかと。恐らく、市の施設をどうこうって言っても、いろんな制約が出てくるのは間違いないのではないかと。結論として、門馬委員の提案は、正直言っても、恐らく難しいのではないかと思います。その思いは十分わかるんですが、事がかなり大きな問題なんじゃないのかなと。1番は、そういう福祉事業を行う施設が南相馬市にはないということが1番の問題であろうと思っております。ただ、JAとしても、南相馬につくりたいとは思ってはいるんですが、なかなか施設、いろいろ制約等があって、まだつくれていないんです。そういう思いがあるので、足しにはなんないかと思いますが、お話をさせてもらいました。

■ 廣瀬委員

震災以降ですね、南相馬市は他の市町村に比べて、この少子高齢化を先取りしているわけですね。今、濱田さんからありましたように、南相馬市の高齢化率ってすごいんですよ。全国平均は、65歳以上25%ぐらいなんですけども、南相馬市は33%、3人に1人になっているんですね。これがいわゆる高齢化の問題ですね。もう一つはですね、子供の数が、非常に南相馬市少なくなつたというのが、もう一つの大きな特徴なんですね。いわゆる少子の方です。先日の新聞を見ると、子供の数は、13市で最も少ないんです。8.4%で、ほかの市町村は1割超えてるんですけども、南相馬市は8.4%です。したがって、この少子高齢化に対して何とかしたいというのは、今、門馬さんや濱田さんの農協のほうでも、何とかしたいっていうような話ありましたね。あんまり大げさに捉えないで、門馬さんの提言は目の前にある施設を使わせていただいて、地域でできることは地域でという、ささやかでもやっていきたいという、提言なんだろうというふうに思います。したがって、私としては、出来ない理由を探すというよりも、出来る理由を探して応援していきたいなと思っております。いろいろあると思うんです。縛りがあると思うんですけども、それを乗り越えて、ぜひ実現できる方向で応援したいなというのが私個人の意見です。以上です。

■高田委員

はい。濱田委員からお話があったのですが、委員提言のタイトルが、休園中の幼稚園の開放なんですよね。だからこの前、幼児教育課が来たんです。そうすると、いくらこちらで質問をしても、答えは、限界があるんですよね。いろんな縛りがあってね。だから、それ以上の答えを求めても無理ですよね。だから、中身がね、例えば高齢者の問題がいろいろあるとすれば、幼稚園の開放のところ、どうしても提言のタイトルだから、そこでもう入り口の時点で、問題が出てきてしまう。例えば、子供たちや高齢者がそこで何かあった場合、どこで責任をとるんですかと。幼児教育課では、これは責任とれないですよね。だから、それを解決するには、もっと別なタイトルでもってやらないと。提言出したとしても、入口でシャットダウンされるようなことになりかねないと思います。門馬委員の仰っていることを生かしつつ、門前払いされないようなもので委員提言となればいいと思います。

■濱田委員

別に石神幼稚園でなくてもいいのですよね。

■会長

高齢者の方たちはあまり遠くまで足を運ぶのは大変だということですよ。

■濱田委員

あまり遠くない距離で、石神地域周辺ということであれば幼稚園でなくともいいのですよね。

■門馬委員

いや、石神幼稚園だと集まりやすいので。歩いていけるし、学習センターだとすごく遠いので。学習センターは、そんなサロンとかに使える時間の余裕がないので、幼稚園だったら学校も近いし、生徒の顔も見られるっていうのがすごく魅力だったので。幼稚園には調理室がないので、学校では、各家庭科室を必要ならお貸ししますよって言われています。幼稚園の庭だとガードがされていて、外で高齢者の方が遊んでいてもすごく解放感があって、すごくいい雰囲気だったので。

■廣瀬委員

今、高田委員からもあったように、学校開放という非常に難しい部分もあるんですよ。

■門馬委員

はい。それは分かります。

■廣瀬委員

まず火を使うのは、許可しないですから、それから、事故があった場合に、だれが責任をとるかという問題もありましたけども、もちろん、これは主催者側が責任をとるんですが、施設を提供したほうの管理責任も問われるんですよ。例えば、フェンスが壊れていて、そこから子供が出ていって、堀で溺

れるようなことがあれば、これは管理責任と同時に施設を提供した者の管理責任も問われるんですよね。したがって、先ほど高田委員が言ったように、石神幼稚園を開放してほしいということになれば、非常にハードルが高いと思います。だから、ここをなんとかしないとイケませんが、門馬さんのねらいは、非常にいいと思うのですが。その場所の問題ですよ。

■ 島村委員

ぜひ応援したいという考えではあるんですが、例えば、その問題の論点が幼稚園ってことなんですが、今さっき調理室って話もでておりました。只今、石神第一小学校はやっていて、そういう学校の空き教室も使えないかっていうところでも、ちょっと問題がずれるかもしれませんが、ほかの施設でもやっぱ同様のことが言えるのかなということなのですが、ちょっと逃げ道ってわけではないんですが、私も実は石神地区に住んでおまして、お寺の住職も努めております。ちょっとずらすわけではないのですが、例えば、お寺もある意味、公共施設というか文化会館のような位置づけであるべき施設なので、こういう話があれば、お寺を使っただけでも、結構なのですが。だからといって、それでこちらは無しでというわけではないのです。そういう方法も、もちろん最終的には一つの案としては、私どもでも、いろんな方に使っただけのほうがありがたいと思います。普段、お寺の本堂は使われていない状態ですので、よろしければ使っただけならば、ありがたいというのが、私の一つのご提案ってことではあるんですが。論点はずれるかもしれませんが、ほかの公共施設もあわせて、条件つきで何か提供していただくようなことができないかなと思います。使う方としては、いろんな制約がいっぱいあると使いづらくなるかと思うんですが、ただ、何も全く使えないよりは、いろんな条件つきで構わないってことで、限られた時間だけでも、使えるように何かこう許可を請うようなところを求められないのかなと考えてみました。はい。以上です。

■ 廣瀬委員

今の場所の問題が解決できれば、あとは、そのノウハウの問題、それから資金の問題は、社会福祉協議会では応援できますので、ぜひ、そこをもう少し地域で練っていただければと思います。

■ 門馬委員

はい。ありがとうございます。

■ 小林委員

はい。すいません、問題の本質としまして、石神地区で高齢者と子供たちが休日に集まれる場所がないということで、先ほど、ほかの委員の方からもありましたように、石神第一幼稚園の場所にこだわる必要はないのかなとは思うんですね。なので、もし提言をするということであれば、休業中の施設や民間施設を含めた、こういった自由に集まる場所をつくっていただきたい、開放していただきたいというような、そういった形のニュアンスとして、また改めて一度、この提言を一から作り直したほうが、話がスムーズになるのではないかなと。そういう形であげたほうが、おそらく南相馬市としても

総合的に考えてくれるのではないかなと思いますので、ちょっと一度門馬さんのほうで、差し戻して、提言書を持ち帰って改めてつくって、そういった石神の意見も含めた上で作ってみて、その上でまた改めてご提言いただくというのが、ベストな進め方として落としどころとしてはよいのではないかなと感ずるのですが。そういった形でいかがでしょうか。

■門馬委員

はい。それも検討してみます。

■会長

門馬さんの提言の意図にあるのは、お年寄りや子供たちが集まりやすい場所づくりが重要な点なんですよ。その中で、まず、幼稚園再開が先か、あるいは幼稚園の施設利用が優先かという点と、幼稚園以外の利用可能な他の施設などの検討などが挙げられると思います。一度ですね。本日出た意見等も含めて、門馬委員の方でお持ち帰り頂いて、石神の方での意見等も含めた上で再度まとめて頂きたいと思います。ですので、こちらの提言については引き続き継続ということにしたいと思います。他に何かございますか。無ければその他に移ります。

(5) その他

■会長

次第4のその他について、事務局または委員から何かございますか。はい。山城さん、どうぞ。

■山城委員

ここを出して言う話が分からないですけども、復興とか、復旧とかですね。そのために、山を切り開いて土砂が採取されています。これから梅雨に入ったり、あるいは集中豪雨でどうなるかという心配があるんですけど、この点について市として、どういうふうな管理がされているのか。あるいは法的にどのような管理や処理がされているのか。その点をちょっと教えてもらいたいのですが。すぐに回答できるものではないと思うので、次回までに回答頂く宿題としてはどうでしょうか。次回担当課の方に来てもらって、説明してもらえればと思います。

■総務課長

今、山城委員が仰った件、正直、総務課の方では、把握してございませんので、多分、担当課が土木課になるかと思いますが、直接来ていただいて話しをしてもらったほうが、私どもから話して、また山城委員から質問が出されて、また次回までに、なんて話よりは、担当課に来ていただいたほうが、委員の皆様、深く理解できるかと思いますが、次回そのような形で対応したいと思います。

■山城委員

今の提案に絡むんですけど、去年ですけど、私のほうから避難所運営に関するマニュアルに関連した提言を市の方へ出して、危機管理の担当のほうだと思うのですが、人事が変わられたかどうか分からないのですが、あれから進展がない状態なので、一つ催促をお願いしたいと思います。

■総務課長

今の件についても、次回あわせて対応したいと思います。

■会長

その他、何かございますか。はい、総務課長。

■総務課長

先ほど馬事公苑関係の意見書の件で、若干このような形で修正して、出してはどうですかというような形で申し上げたいと思います。先ほど、廣瀬委員や高田委員のほうからも話がありましたように、この地域協議会の意見としては、第三者委員会を設けてほしいというような提言だということが1点。あと、広く市民の方からということですので、それは先ほどの話では、設置してからどうなるっという話でしたが、公募委員を含めてということで広く市民をとという形で文言の中に追加しておけば、地域協議会としての意見はこういう考え方ですよという提言になるかと思しますので、このような修正ではいかがでしょうか、ということをお諮りしたいと思います。

■会長

今、総務課長が仰られたことで皆さん、よろしいでしょうか。

■全員

異議なし

■会長

はい。その他、何かございますか。事務局からどうぞ。

■事務局

はい。次回の地域協議会なのですが、議会月につきましては、地域協議会を休みとするということを慣例としておりますので、次回地域協議会、この7月に開催予定でございます。例年、大体7月の20日前後を、各地区とも開催の日程としておりますので、その前後で、会長と日程を相談して改めて皆様にご通知したいと思うんですが、20日は、原町区の区長連絡協議会の市政懇談会がございますので、その日は外させていただきますが、その周辺で、日程を調整させていただきます。改めてご案内をしたいと思います。以上です。

■会長

その他なければ、以上で本日の日程は全て終了いたします。ありがとうございました。

(5) 閉会

■総務課長

それでは以上をもちまして平成29年度第2回地域協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。